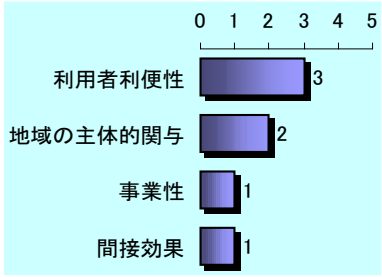


事例 25—江南市コミュニティバス「いこまいCAR」

■事業主体 ■江南市

■運行事業者 ■名鉄西部交通株式会社

■運行区域 ■江南市内
 関連HP <http://www.city.konan.aichi.jp/>



導入の背景・目的

江南市域では、モータリゼーションの進展により、従来からの路線バスの廃止が相次いでいたが、市民の交通手段を確保することの必要性から、市では公共施設を結ぶ巡回バスを検討していた。一方タクシー事業者も利用者の減少が目立つようになってきており、タクシー利用の新規需要を掘り起こすことが必要と考えていた。こうした中で、地域の移動手段として、タクシーの空車を利用した乗合型タクシーの検討が進むこととなった。平成13年初頭より検討に入り、同年運輸局へ一般貸切旅客自動車運送事業による乗合旅客運送許可申請を行い、平成14年1月より試行運行を開始した。

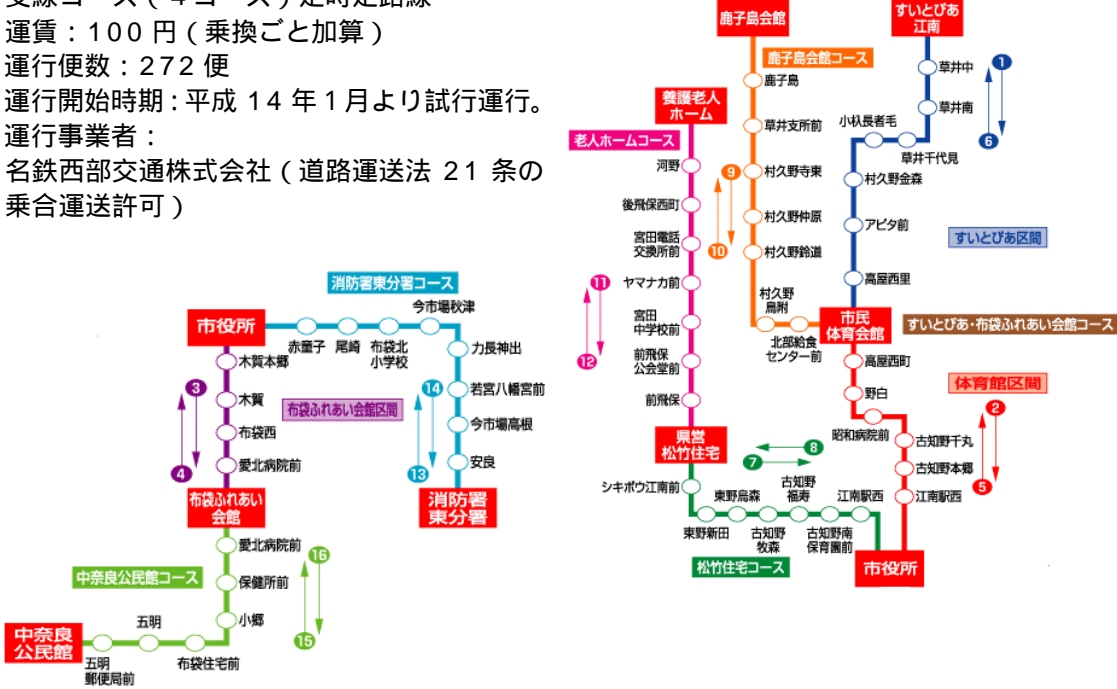
図1 いこまいCAR



事業概要

- 路線：
- ・幹線コース（4コース）
 - ・支線コース（4コース）定時定路線
- 運賃：100円（乗換ごと加算）
- 運行便数：272便
- 運行開始時期：平成14年1月より試行運行。
- 運行事業者：
- ・名鉄西部交通株式会社（道路運送法21条の乗合運送許可）

図2 いこまいCAR路線



導入時のポイントー苦労した点・工夫した点

<p>【苦労した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースの設定・ダイヤの設定 ・乗務員教育 	<p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般タクシーと識別するためにサンバイザーにステッカーを赤色の表示を付ける。 ・途中5人以上の乗車になった場合は臨時便を運行。 ・乗車毎に「利用済券」を渡し、20枚で「花の種」と交換できる。 ・乗場標識を当初の仮設からバス停標識を設置し、乗降場所を明確化した。
--	---

事業効果と今後の展開

【事業効果】

乗車人員：

- ・1年間の試行期間をみると開設初月のみ2,000人より少ない利用者数であったが、次月以降2,000～3,000人程度の利用で安定的に推移している。

輸送収入：

- ・利用者が安定的に推移していることを受け、輸送収入は200万円/月強を維持している。それ以外に、運行委託料として市が100円/kmを助成している。

効果が上がっている点：

- ・100円運賃で市内の公共施設等へ行くことができ利用者からは好評である。

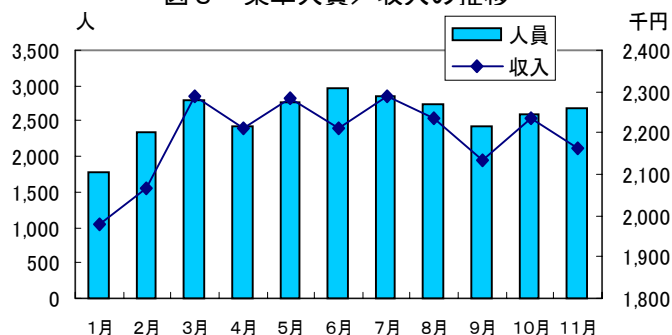
効果が上がっていない点：

- ・目的地に行くために乗換があるため不便との声もある。

【今後の展開】

- ・運行委託料は100円/kmであるが、増額依頼中
- ・平成15年4月より支線コースの便数を25%削減している。

図3 乗車人員／収入の推移



評価

対象	評価
利用者利便	・100円という低価格で公共施設等へアクセス可能となったことは、利用者利便性を向上させたといえる。
地域の主体的関与	・運行キ口あたりで助成することで運行に直接関与している。さらに本格運行に向けて自治体と事業者の協力が期待される。
事業性	・収支率は約15%と低く、事業者においては路線見直し等により利用者増を図ること、とともに行政補助の継続的関与も望まれる。
間接効果	・新しい交通手段によって外出機会が拡大したこと、自家用車からの転換が見られたことから導入効果があったといえる。